

商品取引員経営 4～9月期 補償基金協会調査

取引増えたが収益悪化

自己取引益の大幅減が響く

「取引高、委託者数、預り委託証拠金とも増えたが、経常収益は悪化」——(社)商品取引受託債務補償基金協会が発表した統計数値を基に商品取引員の平成15年4～9月の経営状況を前年同期と比較すると、このような結果となった。自己取引益が前年同期の5分の1になったのが響いた。

委託者 建玉とも増加

証拠金5千億円に迫る

「主要経営指標」
会員数は93で、前年同期に比べると2社減った。逆に役員数は2万1,175

法改正で一層の飛躍を期す

5団体合同 賀詞交歓会

7000人出席

商品先物関係3団体と在京2取引所は1月5日、午前10時半、東京・千代田区の東京會館で平成16年の「新年賀詞交歓会」を開いた。会場には行政、業界、学界、マスコミ関係者など約7000人が出席、今年の業界の発展を願って門出を祝った。

まず、主催者を代表して今年の幹事団体、東京工業品取引所の中澤忠義理事長が「昨年は出来高が1億5、400万枚と5年連続して史上最高を更新した。イラク問題や為替の変動で商品先物市場の役割が再認識されたからだと思う。今年は

6年振りに商品取引所法が大改正され、利便性が一層向上しよう。商品先物取引の役割、重要性はさらに高まる。今年は今後への発展の一步となると確信している」とあいさつした。

続いて、来賓の経済産業省・青木宏道商務流通審議官が「日本経済は失われた10年を経て、ようやく明るい兆しが出てきたが、商品先物取引はそれを先取りしている。昨年、産業構造審議会でも商品取引所法の改正について論議して、12月に中間報告をいたした。目下、通常国会に法案を提出するよう準備中だが、



5団体トップによる鏡開き

鏡開き
品取引所法の改正について論議して、12月に中間報告をいたした。目下、通常国会に法案を提出するよう準備中だが、

成立に全力を尽くしたい」と述べた。
次に、農林水産省の田中孝文大臣官房審議官が「法改正に全力を尽くしたい。官庁にとって正念場の年となる。農水省では、「市場に選ばれる強い農業」を目指している。そのためにリスクヘッジニーズが大きく広がることを期待される。手数料の自由化は新しいビジネスモデルの開発につながっていく。業界にも正念場となる」とあいさつした。



その後、二家勝明先物協会会長を含む5団体の長が鏡開きを行った。参加者は約1時間半、なごやかに懇談、話の輪が会場一杯に広がった。

35人で4%増え、12万人台にあと一步に迫った。「委託者10万人が壁」といわれて久しいが、どうやら、その壁はクリアしたようだ。

この結果、預り委託証拠金も4,948億円と4%増え、5,000億円台回復目前となった。また、ピーク時よりは少ないとはいえ、これも着実に回復軌道に乗ってきたといえよう。

総建玉数は555万枚で4%増えたが、うち、委託建玉は452万枚で6%増えた半面、自己建玉は103万枚と7%減った。純資産額は3,814億円増え、4%増え、財務内容は着実な改善がみられる。また、資本金は若干増えたが、営業所数は若干の減

リストラの動きが続いている。

取引高は一〇%増
経常収益は減少
「損益関係指標」
総取引高は1億2,835万枚と前年同期より10%の増加となった。石油、貴金属に続き、穀物は夏以降、世界的需給ひっ迫懸念から大豆やとうもろこしが活発に取引されたことが主因。ただ、内訳をみると、委託取引高は7,709万枚で、7%増に留まった半面、自己取引高は5,126万枚と14%増となった。自己建玉は7%減っているの、長く玉を保持せず、回転を速めて、利益を確保しよう」という戦略がみてとれる。

「なつとくセミナー」
1・24 東京で最終回
先物協会は、03年6月から全国各地で開いてきた「商品先物なつとくセミナー」の第5弾、最終回を1月24日午後1時から東京商工会議所7階の国際会議場で開催。東京開催は2回目。講師は前回と同じで、UFJ総合研究所・山崎元主任研究員がリスクコントロールの観点からマーケットとのつきあひ方と楽しみ方を、原一郎税理士が商品先物取引の新税制のポイントを話す。

「なつとくセミナー」

1・24 東京で最終回

先物協会は、03年6月から全国各地で開いてきた「商品先物なつとくセミナー」の第5弾、最終回を1月24日午後1時から東京商工会議所7階の国際会議場で開催。東京開催は2回目。講師は前回と同じで、UFJ総合研究所・山崎元主任研究員がリスクコントロールの観点からマーケットとのつきあひ方と楽しみ方を、原一郎税理士が商品先物取引の新税制のポイントを話す。

経営収益は1,813億円と5%減少した。手数料収入は1,662億円と1%増加したが、取引損益が27億円と79%も減少したのが響いた。ただ、自己売買は4月6月には29億円のマイナスだったが、7～9月は56億円のプラスに転じている。この結果、4～6月には前年同期の44%と半分以下に落ち込んだが、経常収益は7～9月には141%となり、4～9月でも326億円と前年同期の77%にまで戻り、回復基調となっている。また、経常費用は人員増などを映し1,487億円と前年同期比微増となった。

経営調査 平成15年4～9月期 (全会員)

| 主要経営指標 | 15年9月末 | 14年9月末 | 比較(%) |
|---------|---------------|---------------|-------|
| 会員数 | 93 | 95 | 98 |
| 役員数 | 21,175 | 20,869 | 101 |
| 登録外務員数 | 15,449 | 15,093 | 102 |
| 委託者数 | 117,935 | 113,832 | 104 |
| 総建玉数 | 5,558,315 | 5,368,200 | 104 |
| 委託建玉数 | 4,524,853 | 4,261,427 | 106 |
| 自己建玉数 | 1,033,462 | 1,105,773 | 93 |
| 預り委託証拠金 | 494,837 | 477,225 | 104 |
| 純資産 | 381,496 | 366,411 | 104 |
| 資本 | 78,651 | 76,521 | 103 |
| 営業所数 | 540 | 546 | 99 |
| 損益関係指標 | 15年4～9月 | 14年4～9月 | 比較(%) |
| 総取引高 | 枚 128,359,038 | 枚 116,700,622 | 110 |
| 委託取引高 | 枚 77,098,849 | 枚 71,810,242 | 107 |
| 自己取引高 | 枚 51,260,189 | 枚 44,890,380 | 114 |
| 経常収益 | 百万円 181,394 | 百万円 190,388 | 95 |
| 経常費用 | 百万円 166,297 | 百万円 165,009 | 101 |
| 経常取引益 | 百万円 2,703 | 百万円 13,027 | 21 |
| 経常取引損 | 百万円 148,771 | 百万円 148,042 | 100 |
| 経常取引支 | 百万円 32,623 | 百万円 42,346 | 77 |

「拝見」手作り陶芸 プロセスを楽しむ

東京コムウェル
監査役
宇賀神 治夫



宇賀神さんは農政局時代に九州や京都の窯場をよく訪ねた。そして陶芸の魅力にとりつかれた宇賀神さんが実践に乗り出すのは昭和58年ごろだ。

「経済企画庁時代のことですが、朝日カルチャースクールの佐藤和彦先生について勉強しました。週1回、退庁後に新宿住友ビル内の陶芸教室に1年半通いました。」

やがて自らロクロを回し、乾燥させ、削ったり、櫛目を入れたりしながら型を整え、素焼きのあと釉薬を掛け、焼き上げる。陶芸の道にはまっていく。自宅(蔵市)に近い浦和の陶芸教室が宇賀神さんの道場取り寄せ、7、8台のロクロ

口を前に仲間たちと腕を競い合う。いまは週に3、4回通っている。窯は東川口にあるガス窯で12～18時間かけて焼き上がる。宇賀神さんは食器や花瓶

など実用性のある陶器を主として手掛けている。昨年、さいたま新都心で開かれた「めし茶碗展」に出品したが、めでたく30点ほど買手がついた。ちなみにお値段はふた付きで1,500～2,000円だという。

県展への出品は考えておられないか、と水を向けると「県展となると装飾性のある大物でないと、まず無理です。花瓶で40センチ位の高さがないと」。宇賀神さんは実用性を重視し、伝統工芸のプロセスを楽しむことを第一義にしているようだ。「家の中は陶器で一杯、フリーマーケットに出して売ればなどと言われています」。思い通りの作品に仕上がるのは10個に1個ぐらいだという。焼き上がった時の感動を求めて今日も宇賀神さんはロクロに立ち向かう。

宇賀神さんの苦心作いろいろ